



おおた教育ビジョンの理念

○ 笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てます

教科「おおたの未来づくり」の新設に向けた研究実践校(3年次)
「エージェンシーの発揮を促す基盤となるカリキュラムをデザインする
—変革をもたらすコンピテンシーを教科等横断的に育成する—」

何を学ぶか

- 学び方を学ぶ。
・学習方略を知る・活用する・選択する。
- 教科等の特性に応じた見方・考え方を学ぶ。
- 学習調整の仕方を学ぶ
- 多様な他者と協働することを学ぶ。
- 学習したことを他の学習や生活で活用することを学ぶ。
- 想像力を高め多様性を尊重し認め合うことを学ぶ。
- 規範意識を高めて行動することを学ぶ。
- 地域や社会のために自分ができることを考え行動することを学ぶ。
- 学習用タブレットの効果的な活用について学ぶ。

どのように学ぶか

- 「予習—授業—復習」サイクルで学ぶ。
- 「習得サイクル」で意味理解を深める。
・アウトプットしながら理解確認する(理由を付けて説明する)。
・協働しながら理解深化する。「たいせつ」を生かして考える
・学習を振り返り次の学習に生かす(7分間の振り返り)。
- 「探究サイクル」で深く探究する。
・つかむ—あつめる—まとめる—あらわす
・コンセプト—デザイン—クリエイション
- 教科等横断的に学ぶ。
・他教科等との関連性や連続性に着目する。
- 多様な他者と関わりながら学ぶ。
- 豊かな地域資源から学ぶ。
- 異学年集団で学ぶ。
- イノベーション・シートでのリフレクションを生かしながら学ぶ。
- 「ものづくり」と「地域創生」の視点で学ぶ。

教育目標

- よく考える子ども
- 思いやりのある子ども
- ねばり強い子ども
- 健康な子ども

小学校生活で身に付けてほしい力(変革をもたらす3つのコンピテンシー)

「イノベーション・シート」による AAR(見通し・行動・振り返り)

- 新たな価値を創造する力
・現状に疑問をもち、他者と協働しながら既存の枠にとらわれずに考える。
- 対立やジレンマに対処する力
・関係するみんなが納得できるよう、折り合いを付けながら解決策を見付け出す。
- 責任ある行動をとる力
・これまでの経験や自分の目標、教わってきたことや善悪などに照らし合わせて、自分の行動を思い起こして振り返る。

学校目標

目標の実現に向けた「未来実現プロジェクトチーム」による AAR

- 他学年との関わりを大切にしよう……他学年との関わりを深め仲のよい学校をつくろう
- 学校のきまりを守ろう……安心、安全で居心地のいい学校をつくろう
- みんなが過ごしやすい学校をつくろう……学校に行きたいと思えるような楽しめる学校をつくろう

子どもの学びを進化させる専門性の向上

- 学年交換授業の実施
- 異学年交流による学習活動の拡大
- いじめ防止・不登校対応、安全・危機管理
・未然防止、早期発見、初期対応、組織対応の徹底
・「いじめ防止基本方針」「不登校対策アクションプラン」「相談シート」等による対応の徹底
- 人権尊重の理念・人権課題への深い理解
・偏見や差別意識の不合理性への理解
・価値的・態度的側面・技能的側面の理解
・「人権教育プログラム」による定期的リフレクション
- 「OJT パッケージ」による教科等専門性・授業力の向上
- GIGA 推進チームによるタブレット利活用の推進・充実
- 特別支援教育の推進・充実
・「デマンド・ニーズ・実行プログラム」や個別の指導計画、特別支援委員会による組織的対応の充実
・関係機関と連携したコンサルテーションの活用
・都立特別支援学校のセンター的機能の活用
・授業ユニバーサルデザインによる学習環境改善
・学習用タブレット端末の活用
・「ほっとルーム」の運用による居場所づくり
- 教員の働き方改革による教育活動の質的向上
・教科等横断的な視点による学習内容の充実
・各種データ分析ソフト導入による業務の効率化
- 服務事故防止・メンタルヘルスの組織的対応徹底

新教科施行に向けた体験学習の充実・検証

- 田園調布せせらぎ館をハブとした
地域学習・単元開発
- 区内資源を生かした校外学習
- 多様な企業との連携学習
- 高学年での TGG(体験型英語学習)

成果指標(肯定的回答9割以上)

- 「授業が分かる」
- 「学校が楽しい」
- 「協働することで考えが深まる」
- 「他学年との関わりを大切にしている」
- 「学校のきまりを守っている」

